

ごみ処理の有料化に関する説明会

1 日 時：令和3年10月2日(土) 午前9時30分～12時00分

2 場 所：袋井西コミュニティセンター

3 出席者：96人

4 次 第

(1) あいさつ

(2) ごみ減量啓発動画の視聴

(3) ごみの有料化(案)の説明

(4) 質疑応答

Q：ごみの有料化は避けて通れないと思っている。今の値段は安いと思うが、20枚180円が780円になるのは高い。また、買占めしている人としていない人がいて、有料化が遅くなれば不公平が増す。1年間の措置期間はいらなと思う。なるべく安く、早く、段階的にではなく1回でやるように進めてほしい。

A：1枚30円の手数料は、あくまでも案として提案させていただいております。説明会で皆様からのご意見をお伺いして検討させていただきます。措置期間につきましては、いろいろな考え方がありますが、近隣市で半年間とした事例がありますが、苦情もあつたと聞いており、1年間が妥当だと考えております。回数につきましては、市も1回にさせていただきますたいと考えております。

Q：ごみが減らないのを市民のせいにしてペナルティのようなやり方をするのは気分が悪い。ごみ問題は本来行政サービスでやるべきではないか。

A：これまで市はお金をかけずに皆さんに分別をお願いしてきましたが、なかなか効果が表れるところまで届きませんでした。雑紙回収などをして可燃ごみを減らしたいと考えていますが収集費用が必要になります。クリーンセンターでは1袋のごみを燃やすのに約60円かかっていますので、半分の30円を何とか負担していただけないか提案させていただいております。

Q：磐田市も有料化していないが、何が違うのか。

A：磐田市は、ごみを出すときに袋に名前を書く「記名式」にしたことで、ごみが減ったと聞いています。

Q：クリーンセンターで何でも燃やしすぎではないか。汚泥をやめて、プラもリサイクルすればいい。なぜすぐにやらないのか。

A：汚泥を燃やさないようにしたいですが、現状ではリサイクルの方が費用が高いことと、近隣に処理できる事業者が少ないことからクリーンセンターで焼却しています。将来的には燃やさないで済むような取り組みもしたいと考えております。プラスチックにつきましても、温室効果ガスの排出係数が一番多いため減らす必要があります。容器包装プラスチックの分別をわかりやすく示したチラシを回覧で回すなどして周知したいと思

ます。

Q：手数料1リットル1円負担してほしいというのと、1袋60円の半分で30円負担してほしいというのは根拠が違うのではないかと。

A：クリーンセンターのごみ処理は1トン当たり約2万円かかっています。大きい方のごみ袋の重さは平均で約3kg程度と見込んでいますので、これを計算すると1袋あたりの処理費が約60円になります。また、1リットル1円は、全国的な事例で、30円代の手数料が1番効率的な減量効果が見込める金額として提案させていただいているものです。

Q：どんなものでもこんなに急に値上げするものはない。値上げすればごみが減ることだが、急に上げられると困る。浜松市では住民がみんな反対して値上げをやめようという方向のようだ。もうちょっと工夫して、極端な値上げをしなくてもいいように、近隣市を参考にしてほしい。

A：ご提案させていただいている1枚30円の手数料は、あくまでも案ですので、皆様のご意見をお伺いする中で検討させていただきます。浜松市につきましては、以前、有料化を見送ったということも聞きましたが、現在は、有識者の方を入れて、有料化の検討を行っているとのことと。

Q：市議会で承認されれば値上げするということだが、住民投票で決めていただきたい。

A：すべてが決まった後で皆様に報告するというのではなくて、説明会が終わった時点で、皆様のご意見を踏まえて市の考え方を整理して、皆様にお示ししていきたいと考えております。

Q：値上げが4倍強でびっくりした。案にしても高すぎる。

A：あくまでも案としてお示しさせていただいているものですので、皆様のご意見の伺う中で検討させていただきます。

Q：自治会の役員が苦勞してごみの仕分け作業をやってくれているが、分別が分かりにくい。もっと細かく示すべき。

A：毎年、各自治会の環境美化推進委員に、年度初めに集まっておいて研修を行っていますが、ここ2年はコロナの影響で開催できていません。来年は様子を見ながらになりますが、開催したいと考えています。分別がなかなか理解されにくいとのことですので、自治会の役員さんには、その都度説明させていただきたいと思っております。

Q：市長が変わったからごみ袋も水道も下水道も値上げするのか。

A：ごみ処理の有料化は、大場市長になってから出た話ではありません。水道も下水道もそうですが、原田市長のときに検討を進めるということが決まっていたのですが、コロナで皆さん大変になってしまったので1年見送りしようとなった経緯があります。コロナが落ち着いたかは判断できませんが、ごみの減量、地球温暖化対策も喫緊の課題でありますので、ごみ処理の有料化を進めたいということを担当部署から大場市長にお願いして、今回、皆様にご提案させていただいているものです。

Q：クリーンセンターは袋井市だけでなく森町も使っている。袋井市が値上げする場合、森町にも負担を要求するのか。

A：金額は袋井市の案よりは安いですが、森町は既にごみ処理の有料化をしていますので、

既に相応の負担をしているということになります。クリーンセンターは、袋井市と森町で費用負担していきまして、人口やごみの量に応じて負担割合が変わってきます。袋井市のごみが減って、森町のごみが減らなければ、森町の負担が増えるということになります。

Q：クリーンセンターがあと2～3年で処理限界量になるということだが、この表現は正しいのか。H30年に作成している一般廃棄物処理計画のごみ処理の実績の中に、H28年度の処理量34,810トンという数字がある。ほかにも実績で35,962トンという数字がある。既に処理限界量を超えているのではないか。

A：ごみを焼却処理する過程で発生する灰の一部や、施設の冷却に使う水などを戻し入れており、それを含めた数字が処理量として記載されています。私たちが言っているのは、実際に処理できるごみが年間34,000トンで、これが限界に近づいているということです。

Q：クリーンセンターができて約10年。それで限界を超えてしまうというのは、計画がおかしかったのではないか。

A：国の補助金を受けるためには、将来的にごみが減っていくことを前提に設計しなければならないというルールがあるため、そのような計画になっています。

Q：減らすごみの的を絞らないと減らせないのではないか。

A：説明会終了後に、来年度からの方向性を検討していきますが、手数料の金額によって収入も変わってきますので、市がやれる事業の内容も変わってきますが、決まった段階で皆様にお示ししたいと考えています。的を絞ってというのは必要なことだとは思いますが、温室効果ガスを26%、46%減らすことは簡単なことではありませんので、市としては、できることは全てやって温室効果ガスを削減していきたいと考えています。

Q：遠鉄ストアでプラごみを集めていると聞いて、分別して出すようにしたら半分くらいに減った。売る側の責任として回収もするべき。市が努力してほしい。

A：お店の考え方がありますのでお約束はできませんが、市として呼びかけていきたいと思えます。

Q：有料化しなくてもごみが減る方法を市が探してほしい。プラや発泡スチロールとかをいつでも出せるようなボックスとかを設置できないか。

A：今は容器包装プラスチックだけを分別してリサイクルしていますが、今後、その他の硬質プラスチックも一緒に集めてリサイクルしていくことを国が示しています。市では、今後、容器包装プラを、毎週燃やせるごみの集積所に出してもらえばどうかということを考えていますが、国のリサイクルの方向と食い違ってしまうと、また変更することになってしまいますので、国の動きを見ながら検討させていただきます。

Q：とれたて倶楽部でお店をやっているが、今は生ごみの処理が循環していない。テイクアウトの需要も増えていて、プラスチックごみが増加していることも危惧している。コンポストなどを使ってごみを減らす活動を以前からやっているが、もっと広げていきたい。行政だけでなく、市民や民間でできることがあると思っている。得意分野が違うので、それぞれいいところを掛け合わせて、いいまちづくりに繋がればいいと思う。

A：行政だけではできないことがたくさんありますので、力を貸していただきたいです。よろしく願いいたします。

Q：手順がおかしいのではないか。まずは市をあげて、可燃ごみを減らすことを呼びかけるべきではないか。市長が先頭に立ってごみ減量をアナウンスすべき。その後に、どうしても値上げが必要なら、その後に検討して、説明会をやって、広報してから実施するものではないか。

A：ごみ減量のアナウンスにつきましては、市長に伝えて、取り組んでまいりたいと思います。

Q：クリーンセンターは、磐田、掛川、袋井はどこも（人口比で）同じようなキャパで、どこも同じような時期に作っている。市民が出すごみの量もそんなに差はないのではないか。

A：クリーンセンターの搬入量につきましては、掛川市は、有料化していて一部では記名式もしています。磐田市は、有料化していませんが記名式にしています。掛川市も磐田市も、1人当たりのごみの量が袋井市よりも少ないです。

Q：土木事務所がやっている河川の整備で出る木や刈草などをチップにしたりリサイクルするシステムを作るよう進めてもらいたい。

A：今後、自治会等に草木のコンテナを置かせていただいて、リサイクルすることを考えておりますが、現在はクリーンセンターに直接搬入された草木を八ヶ代造園に運んでリサイクルしています。これは昨年度から取り組んでいることですが、もっと進めていきたいと考えています。

Q：クリーンセンターが96.8%になっているからごみ袋値上げすることのことだが、こうなる前になぜ減量化に取り組まなかったのか。市役所に行って職員にも言ったが、今日から明日からではなく今からすぐにやるべきなのは分別で、ごみを減らすには分別しかない。なぜそれを説明会で言わないのか。

A：これまでの説明会では、提案に対してご理解いただきたいという気持ちが先行してしまい、手数料などの説明ばかりになっていました。ご指摘をいただいて、改めてその通りだと思ひまして、大変遅ればせながら今日は分別の説明もさせていただきました。今後、ご指摘いただいたように、分別の啓発に取り組んでまいりたいと思います。

Q：H21年からごみが増えているにもかかわらず、なぜH28に何でも燃やしていいというように分別を変えたのか。

A：汚れていてリサイクルできない容器包装プラとその他プラスチックは最終的に焼却処理していましたので、H28年に可燃ごみに入れていいとしたことで、プラスチックは全て燃やしていいと誤解された方もあり、可燃ごみが増えてしまいましたが、それ以前のH24に増えている原因は汚泥です。クリーンセンターは、ごみ処理施設だけでなく汚泥処理施設の機能もありまして、クリーンセンター建設の補助金の関係で汚泥も燃やすことにしたことから増えています。